

平成21年度 事業報告書（概要）

（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）

学校法人 奈良学園

目次

I. はじめに	P. 1～2
II. 法人の概要	P. 3～5
1. 沿革	(P. 3)
2. 法人本部及び設置する学校の所在地	(P. 3)
3. 役員の状況	(P. 4)
4. 評議員の状況	(P. 4)
5. 専任教職員の状況	(P. 4)
6. 学校別の土地及び建物	(P. 5)
7. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）	(P. 5)
III. 事業の概要	P. 6～12
1. ハイライト	(P. 6～8)
(1) 登美ヶ丘キャンパスの充実	(P. 6)
(2) 郡山キャンパス（奈良学園中学校・高等学校） の新校舎完成	(P. 6)
(3) 高田キャンパス（奈良文化高等学校） 新校舎・寮の建設開始	(P. 7)
(4) 高田キャンパス（奈良文化女子短期大学附属 幼稚園）園舎の修繕完了	(P. 7)
(5) 国際交流プロジェクトの活発化	(P. 8)
(6) 志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）の 復元	(P. 8)
(7) 地域交流の活発化	(P. 8)
2. 設置校の主な事業と進捗状況	(P. 9～12)
(1) 奈良産業大学	(P. 9)
(2) 奈良文化女子短期大学	(P. 10)
(3) 奈良文化高等学校	(P. 10)
(4) 奈良学園中学校・高等学校	(P. 11)
(5) 奈良学園幼稚園・小学校・ 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	(P. 11～12)
(6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園	(P. 12)
IV. 財務の概要	P. 13～17
1. 平成21年度決算の概要	(P. 13～17)
(1) 資金収支の概要	(P. 13)
(2) 消費収支の概要	(P. 14)
(3) 貸借対照表の概要	(P. 15)
(4) 平成21年度財産目録（概要）	(P. 16)
(5) 監査報告書	(P. 17)

I. はじめに

学校法人奈良学園では、平成 20 年度から第二次中期計画に取り組み、平成 22 年度までの 3 年間に「奈良学園教育ルネサンス」を標榜した改善・改革に取り組んできた。その根本精神は、人間中心主義、教学中心主義、本物一流主義、公正公平主義、安全安心主義、である。そして改善・改革の基本方針は、1) 総合学園としての体制を再構築する、2) 高等教育を再編し存続可能な教育機関とする、3) 高田キャンパスの存続・発展を図る、4) 登美ヶ丘キャンパスの開発を完成し発展させる、5) 奈良学園中学校・高等学校の競争力を強化する、6) 安心・安全・公平・公正な教育環境を構築する、とした。

しかし、第二次中期計画 2 年目となる平成 21 年度、経営環境がさらに悪化していく中で、計画の見直しを行い、平成 22 年度から 26 年度までの 5 カ年にわたる「経営改善計画」を策定することとした。これは、日本私立学校振興・共済事業団の指導と助言を受けつつ、総合学園としての将来の体制を盤石なものとするを旨としたものであり、第二次中期計画を引き継ぎ、より具体的に弱みを補い、強みを強化するものである。

その結果、第二次中期計画は平成 21 年度で終了し、22 年度からは経営改善計画をスタートするが、21 年度末における改善・改革の進捗状況は次の通りである。

- 1) 平成 18 年度の関西科学大学（仮称）設置認可申請取下げは、学校法人としての適切な管理運営体制構築の契機となったが、平成 21 年 6 月、文部科学省および大学設置・学校法人審議会に改善した管理運営体制が認知された。また 11 月、経営改善計画も策定し、これにもとづく平成 22 年度事業計画も策定した。
- 2) 奈良産業大学と奈良文化女子短期大学の再編に向けて、組織変更を行うとともに再編の方向性が定まった。
- 3) 奈良文化高等学校の建替え準備が整い、奈良文化女子短期大学付属幼稚園の改修が完了し、高田キャンパス再開発が進んだ。
- 4) 登美ヶ丘キャンパスの幼稚園・小学校・中学校・高等学校に必要な開発工事がほぼ完了し、3+4-4-4 の一貫教育体制が整った。
- 5) 郡山キャンパスでは、奈良学園中学校・高等学校の校舎建替え工事が完了し、第 2 期としての体育館・武道場建替えの準備が進んだ。
- 6) 施設・設備の更新により安全・安心な教育環境が整いつつあり、人事や処遇を見直すことによる公平・公正な教育環境も整いつつある。

なお、経営改善計画の策定にあたり、将来にわたる教育理念・経営理念・経営目標を以下の通り明確にした。

【教育理念】

「教育はロマン、夢語るもの」

夢と希望と志を持った前途有為の人材を育成することにより、
人類・社会に貢献する。

【経営理念】

幼稚園から大学まで、すべての校種を持つ総合学園としてのスケールメリットを生かし、各校種間・各キャンパス間の連携・協力を一層密にすることによって、学園のさらなる発展を期する。

【経営目標】

時代や社会の要請に応え、社会の発展に貢献できる、国際性豊かな、オンリーワンの学園づくり

「人間中心主義」 「教学優先主義」 「本物一流主義」
「公平公正主義」 「安全安心主義」

学校法人奈良学園は、法人の概要－沿革に示す通り、女子教育を発祥の原点とし、女子教育についての基本精神をもって、建学の精神を定めた。その後、男子のみ（のちに共学化）の進学校としての中高一貫校を開学し、共学の四年制大学、さらには共学の幼小中高一貫教育校を開設するに至ったが、その都度建学の精神を学校ごとに定めている。このため、経営改善計画の策定を機に、学園全体としての統一理念を明確にしたものである。

II. 法人の概要

1. 沿革

昭和 36. 3	学校法人中和学園設置認可。
昭和 40. 1	奈良文化女子短期大学教養科及び奈良文化女子短期大学附属高等学校の設置認可。 教養科入学定員 100 人、附属高等学校入学定員 100 人、4 月 1 日開校。
昭和 42. 1	奈良文化女子短期大学附属幼稚園の設置認可。 総定員 180 人、4 月 1 日開園。
昭和 45. 4	学校法人奈良学園に名称変更を行う。
昭和 54. 1	奈良学園中学校、奈良学園高等学校設置認可。 中学校入学定員 90 人、高等学校入学定員 90 人、4 月 1 日開校。
昭和 58.12	奈良産業大学の設置認可。 経済学部経済学科入学定員 120 人、経営学科 120 人、昭和 59 年 4 月 1 日に開学。
平成 19. 4	奈良文化女子短期大学附属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。
平成 19. 6	法人本部を奈良県大和高田市東中 127 番地から奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号に移転。
平成 20. 3	奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校設置認可。 幼稚園総定員 155 人、4 月 1 日開園。 小学校入学定員 120 人、中学校入学定員 200 人、4 月 1 日開校。
平成 21. 3	奈良学園登美ヶ丘高等学校設置認可。 入学定員 225 人、4 月 1 日開校。

2. 法人本部及び設置する学校の所在地

平成 21 年 5 月 1 日現在

学 校 名	住 所
法人本部	〒631-0003 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良産業大学	〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1
奈良文化女子短期大学	〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化高等学校	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良学園高等学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園中学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園登美ヶ丘高等学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園登美ヶ丘中学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園小学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園幼稚園	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1

3. 役員 の 状 況 （ 平 成 22 年 3 月 31 日 現 在 ）

※理事定数 8 人以上 12 人以内【現員 10 人】 監事定数 2 人又は 3 人【現員 2 人】

理 事 長 (常勤)	西 川 彭	学園長
理 事 (常勤)	吉 井 弘 侑	学校長の互選による
理 事 (常勤)	松 田 親 典	学校長の互選による
理 事 (常勤)	仁 後 公 幸	学校長の互選による
理 事 (常勤)	平 尾 透	評議員会の選任による
理 事 (常勤)	佐 藤 至 則	評議員会の選任による
理 事 (常勤)	水 野 隆 徳	評議員会の選任による
理 事 (非常勤)	甘 利 治 夫	学識経験者
理 事 (非常勤)	梅 屋 則 夫	学識経験者
理 事 (非常勤)	中 本 勝	学識経験者
監 事 (常勤)	結 城 義 久	
監 事 (非常勤)	村 田 智 之	

4. 評議員 の 状 況 （ 平 成 22 年 3 月 31 日 現 在 ）

※評議員定数 21 人以上 25 人以内【現員 25 人】

法人職員	平尾 透 勝川育司 松岡雅一 東中章晃 久保 守 古川謙二 福永吉延 角田道代 佐藤至則	学園卒業生	川戸昭人 光安寿一 池田順子 櫻井秀子 小鶴和美 出原雅代 岡下慎太郎 宮坂光行	学識経験者	朝廣佳子 小原壮一 加藤正二 阪本道隆 田村雅宥 西川 彭 橋本俊雄 水野隆徳
------	--	-------	---	-------	--

5. 専任教職員の状況（平成 21 年 5 月 1 日現在）

※学長・副学長・校長・園長・副校長・教頭は除く

学校名	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	助教諭	職員	計
奈良産業大学	36	13	6	1	0	0	0	39	95
奈良文化女子短期大学	7	6	6	0	0	0	0	14	33
奈良文化高等学校	0	0	0	0	0	42	0	7	49
奈良学園高等学校	0	0	1	0	0	34	0	8	43
奈良学園中学校	0	0	3	0	0	25	0	4	32
奈良学園登美ヶ丘高等学校	0	0	1	0	0	6	0	2	9
奈良学園登美ヶ丘中学校	0	0	4	0	0	10	1	2	17
奈良学園小学校	0	0	0	0	0	14	0	2	16
奈良学園幼稚園	0	0	0	0	0	7	0		7
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	0	0	1	0	0	5	0	6	12
法人部門	0	0	0	0	0	0	0	34	34
合 計	43	19	22	1	0	143	1	118	347

6. 学校別の土地及び建物（平成21年5月1日現在）

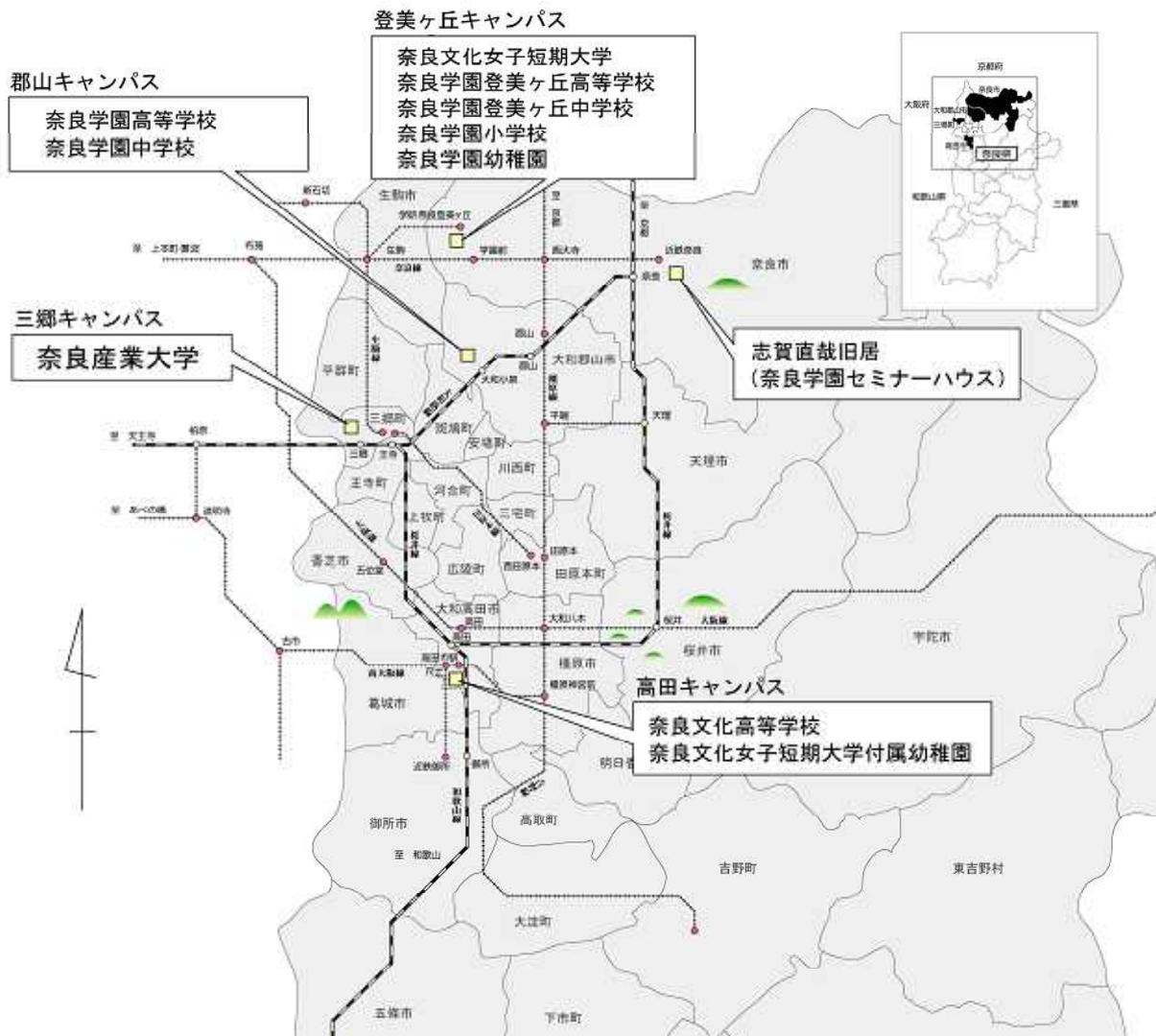
【土地面積】

奈良産業大学	203,745 m ²
奈良文化女子短期大学	68,217 m ²
奈良文化高等学校	39,402 m ²
奈良学園中学校・高等学校	96,452 m ²
奈良学園登美ヶ丘高等学校	12,136 m ²
奈良学園登美ヶ丘中学校	10,795 m ²
奈良学園小学校	5,781 m ²
奈良学園幼稚園	1,243 m ²
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	4,564 m ²

【建物面積】

奈良産業大学	32,224 m ²
奈良文化女子短期大学	36,517 m ²
奈良文化高等学校	9,276 m ²
奈良学園中学校・高等学校	13,791 m ²
奈良学園登美ヶ丘高等学校	10,352 m ²
奈良学園登美ヶ丘中学校	10,475 m ²
奈良学園小学校	9,568 m ²
奈良学園幼稚園	2,249 m ²
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	1,452 m ²

7. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）



Ⅲ. 事業の概要（平成 21 年度）

1. ハイライト

（1）登美ヶ丘キャンパスの充実

平成 21 年 4 月 1 日、登美ヶ丘キャンパスに奈良学園登美ヶ丘高等学校を開校し、幼・小・中・高 15 年一貫教育(3+4-4-4)の体制が出来上がった。4 番目のキャンパスとなる登美ヶ丘は、平成 18 年度から整備を進めてきたが、本年度は第 4 期の整備工事が竣工した。主な内容は、エントランス及びプロムナード、多目的グラウンド、テニスコート、クラブ部室などである。平成 22 年 3 月 31 日の竣工式では、晴天の下、理事長、学長、校長、園長をはじめとした



関係者一同が工事完成を祝うとともに、今後の更なる学園の発展を祈念した。なお、22 年度も多目的グラウンドの天然芝貼りや育友会館の建設を行い、整備工事もほぼ完了することにより、登美ヶ丘キャンパスは充実の時代を迎える。

（2）郡山キャンパス（奈良学園中学校・高等学校）の新校舎完成

昭和 54 年、大和郡山の地に開校した奈良学園中学校・高等学校は、校訓の「至誠力行」の精神のもと「次代を担い、世界に雄飛する人材の育成」を目標に、約 4,800 人の卒業生を送り出してきた。今年度は、創立 30 周年となり、6 月、なら 100 年会館で記念式典を行い、生徒や教職員、来賓ら 1,300 人以上が参加したが、参加者は歴史に想いを馳せるとともに、新たな時代へと視線を向けていた。8 月には 30 周年記念事業の一環としての新校舎建替えも完了した



したが、足掛け 3 年にわたる「奈良学園スクールプロジェクト」の成果が随所に見られ、生徒たちが教員とも手を携えた計画が実現した。22 年度も引き続き第一体育館と武道場ならびにクラブ部室の建替えを行い、30 周年記念事業が完結することとなる。

(3) 高田キャンパス（奈良文化高等学校）新校舎・寮の建設開始



「高田キャンパス」再開発事業の一環として、奈良文化高等学校では、新校舎・寮の建設を開始した。新校舎は校訓を活かし、そのコンセプトは「清く」－白を基調とした女子高らしさ、「優しく」－既存の豊かな緑を内包した中庭、「逞しく」－大きな屋根と水平基調の伸びやかな姿、で表現されるように設計され、高度なセキュリティシステムも実現する。また、新寮は全面個室で最新施設となり、遠方から入学する生徒に入寮費、室料無料で提供される予定と

なっている。待望の新校舎・寮の完成は平成 23 年 3 月の予定であり、新たな「自然と共生の学び舎」として船出する。奈良文化高校では、施設の完成に合わせて 23 年度から普通科の再編と各コースの教育内容の充実を図り、衛生看護科と並びさらなる発展を目指す。

(4) 高田キャンパス（奈良文化女子短期大学付属幼稚園）園舎の修繕完了



奈良文化女子短期大学付属幼稚園では、高田キャンパス再開発に先がけて、平成 20 年度から園舎の様々な修繕を行ってきた。21 年度に屋根・外壁の改修を行い、ほぼ完了したと考えるが、建築設備のみならず、備品や調度品も新しくし、さまざまな行事で利用する楽しみが増している。

奈良文化女子短期大学付属幼稚園では、みどりの幼稚園や英語であそぼう、サッカーや新体操などのキッズクラブ、ネイチャーゲームやお茶会といった課外活動を活発

に行っている。中でも、全体面積が 6ha の高田キャンパスという自然豊かな環境の中で自由に走り回る「みどりの幼稚園」は、園児も先生も一緒になって緑の中で一日を過ごすものであり、幼稚園に通う時期の自然との直接体験が、子ども達の心の中に豊かに蓄積されていく。

(5) 国際交流プロジェクトの活発化

奈良産業大学では、近年の国際化の動きを受けて、各国からの留学生受入れに止まらず、様々な活動を行っている。本年度は、①「国際交流センター」を設置し活動開始。②初の海外保護者懇談会（於 - 瀋陽、大連）を実施。③屏東科技大学（台湾）、メコン大学（カンボジア）と友好交流協定締結。④ 海外インターンシップ派遣の定例化（写真は屏東科技大学への返礼訪問時に撮影）

22年度は、更に活発なプロジェクトが計画されており、「華南理工大学、蘇州科技学院からの短期留学生受入れ」、「香港城市大学、屏東科技大学から夏期日本語集中セミナー受入れ」などの実施を予定している。なお、これらの大学との友好交流協定締結も予定しており、相互の交流がさらに活発に行われる。



(6) 志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）の復元



平成20年11月に着手した「平成の志賀直哉旧居の修復工事」は、21年8月に土塀が完成したことをもって、すべて完了した。今回は、昭和53年以来の修復工事であるが、「直哉の時代に戻す」をテーマとして、昭和4年に志賀直哉の設計によって完成し、志賀一家が約9年間暮らした頃の造りに復元するものであった。工事を進めるに従い手掛かりが続出し驚きの連続であったが、復元がなった今、屋敷内に流れる時間は穏やかで、旧居は奈良市高畑の町並みに美しく佇んでいる。

(7) 地域交流の活発化

奈良文化女子短期大学が奈良市中登美ヶ丘に移転して2年が経過した。奈良学園発祥の大和高田市での発展が長かったせいか、存在が周辺地域になかなか浸透しない。そこで、一般の公開講座のほかに、子育て支援を目的として、臨床心理士資格を持ったスタッフが相談に応じる親と子の相談室「ひまわり」と、近隣の親子が保育ルームに集まって行う交流を支援する「ちびっこ広場」を定期的



的に開催し、相談件数は100件を、広場参加者は延べで1000人を越えるまでになった。そのほかに、月1回ではあるが土曜日の午後、「サタデーオンステージ」と称する音楽鑑賞会を開催し地域の方々に楽しんでいただいている。

2. 設置校の主な事業と進捗状況

(1) 奈良産業大学

学長の進めるスポーツ振興、国際交流、地域連携の3つの柱にもとづき、事業を進めた。

- ・スポーツ振興では、スポーツ交流会館の運用を始め、トレーニング機器を設置し、設備の充実を図った。さらに、信貴山グラウンドに、クラブハウスを増築した。
- ・国際交流では、国際交流センターを設置し、留学生の入学受け入れを進めると共に、学生間の交流を進めた。また、短期留学生を台湾及びカンボジアから受け入れた。
- ・地域連携では、昨年度に引き続き、王寺町リーベールカレッジの公開講座を10回開催し、平城遷都1300年祭記念特別講演を追加開催した。さらに、奈良駅前での講座を新たに開催した。なお、大学キャンパス開放イベントも継続実施し、お花見イベントでは、多くの参加者に好評を得た。

学生支援強化のため、組織と施設を充実した。

- ・組織では、学生支援センターを設置し、健康相談とカウンセリングの窓口とし、臨床心理士を常駐配置した。
- ・施設では、学生に関係する事務室及び各センターを大学会館食堂の2階に集約し、学生の交流フロアの設置とあわせて、学生の集まる空間を整備した。

教育環境の整備を、20年度に続き進めた。

- ・20年度の継続では、資格取得のための講座充実と授業科目への連携、インターンシップ受入企業開拓による参加率向上、分かりやすいシラバスの作成や、キャリアカウンセリング体制の整備、FDの充実と授業改善、大学で学ぶ前の事前教育とプレゼミに注力した。
- ・建学の精神に掲げる実践力を養成するため実施しているプロジェクト演習においては、橿原市との提携で進めていた藤原京CG再現プロジェクトが完成を迎えた。カフェ経営プロジェクトは、学生、教職員に加え、近隣住民の利用が着実に増加している。
- ・21年度は、経営改善計画を踏まえて、23年度からのカリキュラム改訂のための検討に入った。

学生募集では、奨学金による経済支援体制を強化した。

- ・遠隔地支援等を精査し、奨学金全体の規程整備が完了した。このことから、スポーツ学生と外国人留学生を定常的に確保することができた。

事務システムでは、予定通りの環境改善が進んだ。

- ・学務システムと図書館システムのリニューアルにより、WEBによる履修がスタートし、図書の検索が効率化した。さらに、平成22年4月から運用する学生の出席管理システムを導入した。
- ・個別指導の為に学生カルテを学務システムに構築し、情報の管理と共有化が可能となった。

施設設備では、上記のほか、マッキントッシュ教室及び情報ネットワーク機器のリプレースを行い後期授業から運用した。22年度も順次改善を継続する。

(2) 奈良文化女子短期大学

- ・教育環境の面では、「ソーシャルスキル演習」による礼儀作法を身につけさせる教育、「子ども学ゼミ」による探求心・表現力・協調性の育成、「キャリアデザイン演習」によるキャリア教育の充実等の特色ある教育を充実させた。学修の到達度をより明確にするため、GPA制度を導入した。入学前教育及び初年次教育を検討した結果、「ウェルカムノート」を作成し入学予定者に配布した。また、22年度から導入の長期履修学生制度の運用にむけ、カリキュラム等を検討した。
- ・地域貢献では、各種公開講座の開講や学校周辺の清掃活動について、前年実績を上回る内容で実施した。尚、ハイライトに記載した「ひまわり」「ちびっこ広場」「サタデーオンステージ」は毎回好評を博している。
- ・学生募集の面では、クラブ活動の活性化を目標にソフトボール部と陸上競技部の選手確保、長期履修学生制度の導入による履修学生の募集など、入学生は今年も回復傾向にある。
- ・施設整備の面では、1号館の設備改善と総合グラウンド整備とクラブハウス設置が完了した。また、前年に導入した図書館システムの整備が終了し運用を開始した。
- ・その他、前年から始まったホームカミングデーは第2回目を実施したが、当日は食物栄養学科の同窓会も同時開催とした。

(3) 奈良文化高等学校

- ・教育環境の面では、普通科に設置している各コース（特進・普通・福祉）の特色をさらに明確にし、教育内容を一層充実させ、これまでも増して、さまざまな方面で貢献できる人材を養成するため、教育課程の改編を行った。合わせて、福祉コースは保育・福祉コースに改編した。
- ・また、奈良文化女子短期大学付属幼稚園と連携し、保育体験実習を導入した。さらに奈良文化女子短期大学と連携し、保育・福祉コースに在籍する生徒に対して、次年度からピアノの実技指導を受けられるよう計画した。
- ・衛生看護専攻科では、本校版5ヶ年一貫教育を実践するため各領域の内容を具体化した。
- ・施設環境の面では、高田キャンパス再開発が始まる中で、新校舎及び寮の改築を目指しており、21年度は不要校舎等の解体を行った。合わせて、短大施設等を活用する方向で改修計画を立てた。
- ・生徒募集の面では、企画室・入試広報部共同で年度目標値を設定した上で、学習塾への訪問や進学説明会へのブース参加などを大幅に増やした。
- ・また、衛生看護専攻科の校納金について、競争力を確保するため見直し、次年度から施行できるよう届出した。
- ・最寄り駅等から学校までのアクセスについては、スクールバスの導入等について慎重に検討すべく、次年度に生徒・保護者等の意識調査を実施し最終決定を行うこととした。

(4) 奈良学園中学校・高等学校

- ・本年度、本校は開校 30 年を迎え、記念式典を実施した。
- ・開校 30 周年記念事業として、新校舎を竣工させた。新校舎の建設に向けては、生徒参加型の校舎建て替え計画（スクールプロジェクト）を進め、校舎を利用する主体である生徒のアイデアを取り入れながら設計をおこなった。こうした取り組みも生徒の自主性を育むという本校の教育理念に適うものであったと評価している。
- ・新校舎の竣工と併行し、環境教育実践の場として、校地全体を整備していくことに着手した。新校舎にソーラーパネルや屋上庭園を配した他、ホタル・里山再生計画として、校内を流れる沢や学校林を整備した。学校林の整備では、環境教育の実習としてシイタケの栽培もおこなっている。
- ・国際理解教育として、希望者によるオーストラリアへの約 2 週間の海外短期研修を実施した。当初は夏期休暇中を予定していたが、新型インフルエンザの影響もあり、年度末に変更せざるを得なくなった。
- ・生徒の登下校時の安全確保の観点から、平成 22 年度からの運行に向け、通学バスを増便させる新ダイヤを計画した。これにより通学の利便性を向上させたい。

(5) 奈良学園幼稚園・小学校 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

- ・平成 21 年 4 月に奈良学園登美ヶ丘高等学校が開校し、3+4-4-4 の 12 年一貫教育システムの基礎となる全ての校種がそろった。
- ・小・中・高と繋がる学びの連続を図るための、具体的カリキュラム作成作業を進めている。その中で、本校の教育活動の特色を職員間で共有するため、15 年間一貫カリキュラムの概要を一表にまとめ、鳥瞰できるようにした。

小学校においては、12 年間の 5 教科のカリキュラムについて、指導要領の改訂に伴う点検と修正を行っている。

また、12 年間を見通して、英語、理科、音楽、体育、総合的な学習、学校行事について、P・M・Y の各タームにおける特色を明らかにすることができた。

また、各種検定試験・模擬試験について検討を行い、各チームにおいて、その実態が把握できるよう整理することができた。

・地域や近隣研究機関との連携を図るため、小学校では奈良西郵便局や地元のスーパー「ライフ」の見学により、地域でたくさんの方が働いていることを知ると同時に、奈良学園小学校の教育の一端や児童についての理解を促した。

中高では、昨年度に引き続いて、近畿大学農学部食品栄養学科による食育指導、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科等による理科実習、(財)地球環境産業技術研究機構 (RITE) 木村邦夫氏による地球温暖化についての講演を実施したほか、21 年度は「登美ヶ丘講演」として、4 月に陸上競技の朝原宣治氏、10 月に京都大学総長松本紘氏、2 月に筑波大学名誉教授北原保雄氏による講演を開催し、この折には地域の方にも参加を呼びかけた。同様のことを、関西フィルとトリオウイーンの演奏公演の場合同じに行った。

- ・先進的な取組校としての教員研修を実施するため、12 年一貫教育を意識した教員

研修として、7月30日に菅徹氏（奈良産大講師）によるカウンセリングについて、8月28日に内山伊知郎氏（同志社大）による子どもの発達段階について、12月1日に白井利明氏（大教大）による発達と教育について、3月24日に石塚清章氏（玉川学園）による12年一貫教育について研修を行った。

また、9月18日に教員対象AED（普通救命）講習（奈良西消防署）、2月25日に教員対象防犯研修（奈良西警察署）といった安全管理についての研修も実施した。

・学校運営面では、幼小中高を合わせた「学校経営計画」の冊子を、9月に発行した。学校内評価のためのアンケート調査については、中高では7月と12月の三者懇談時に実施し、それぞれの結果と回答を9月と3月に保護者に配布した。2学期分の回答配布が3月になったのは、3学期に来年度に向けての具体的対応策を教員間で検討したためである。幼稚園ではほぼ行事ごとのアンケート調査結果をまとめて、保護者に配布した。小学校では1・2学期に実施したアンケート調査に表れた質問事項をまとめ、2月末に校長が、3月初めに教頭がそれぞれ保護者会で回答した。

・施設面では、平成22年3月に正門及びプロムナード、総合グラウンドとして、野球、サッカー、など多目的に使用できるグラウンドと人工芝が貼られたテニスコート6面が完成し、施設面の教育環境が充実した。

（6）奈良文化女子短期大学附属幼稚園

・教育環境面では、本園独自の特色ある教育内容の充実を図った。まず子どもたちを温かく大切に迎え入れ教育にあたる姿勢が徐々に外部にも理解され始めた。2年前から実施した「みどりの幼稚園」を教育計画に位置づけ、内容の工夫充実を目指した。新たに、付加活動として和太鼓（葛城太鼓）、キッズクラブを導入し、子どもたちや保護者の支持も得られ始めている。

・教員も中堅層が充実し、更なる遊びを主体とした質の高い保育内容の充実に向け、取り組む姿勢が確立できた。預かり保育担当教員の配置により今年度より夏期預かり保育も実施した。

・奈良文化女子短期大学教員の協力による研修や「暮らしと環境フェスティバル」参加等も実現した。また、同キャンパス内の奈良文化高校とは、数々の行事や、保育コースや衛生看護専攻科等の生徒の実習の場として交流を深めた。

葛城太鼓、伝承遊び、食育研修会等により地域との交流も図った。

月に1回の2歳児保育実施も開始し、参加保護者の満足を得たことを踏まえて、未就園児保護者のニーズに応えていきたい。

・施設整備面では、園舎の屋根・外壁、プール・遊具の塗り替え、トイレ・手洗い場の磨きコーティング、園庭・中庭上下兼用部分の整備、安全面を考慮した総合遊具の設置、オートロックシステム導入等により、「清潔で、安全で、私立幼稚園らしい幼稚園」として大いに充実した。園舎壁面を利用した大型時計やレリーフの設置は新しい幼稚園の顔として、華やかさが加わり、さらに「明るく、温かく、楽しい幼稚園」とのアピールとなった。

IV. 財務の概要

1. 平成 21 年度決算の概要

(1) 資金収支の概要

当年度資金収入は 9,550 百万円、当年度資金支出は 14,275 百万円となり、次年度繰越支払資金は 1,563 百万円で前年度に比べ 4,725 百万円減少した。

当年度は、登美ヶ丘キャンパスの校地購入及びグラウンド整備、郡山キャンパスの校舎建替及び設備の整備、高田キャンパスの再開発着手、三郷キャンパスの施設改修、志賀直哉旧居（セミナーハウス）の修復等を実施した結果、施設関係及び設備関係で、あわせて 6,706 百万円を支出した。

平成 21 年度 資金収支計算書

(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,196,273,000	2,248,560,186	52,287,186
手数料収入	53,843,000	55,127,085	1,284,085
寄付金収入	14,409,000	14,337,831	71,169
補助金収入	714,826,000	783,167,818	68,341,818
国庫補助金収入	25,283,000	35,755,500	10,472,500
地方公共団体補助金収入	687,353,000	747,044,318	59,691,318
その他補助金収入	2,190,000	368,000	1,822,000
資産運用収入	425,679,000	439,635,200	13,956,200
資産売却収入	5,020,250,000	4,754,048,000	266,202,000
事業収入	76,652,000	77,113,690	461,690
雑収入	179,229,000	204,708,011	25,479,011
前受金収入	342,936,000	335,964,090	6,971,910
その他の収入	1,397,665,000	1,145,169,676	252,495,324
資金収入調整勘定	473,932,000	507,150,149	33,218,149
前年度繰越支払資金	6,288,275,031	6,288,275,031	
収入の部合計	16,236,105,031	15,838,956,469	397,148,562

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,471,638,000	3,441,886,684	29,751,316
教育研究経費支出	1,102,014,000	954,146,875	147,867,125
管理経費支出	423,033,000	374,330,656	48,702,344
施設関係支出	6,349,515,000	6,288,053,132	61,461,868
設備関係支出	567,940,000	418,668,997	149,271,003
資産運用支出	2,000,000,000	1,998,950,000	1,050,000
その他の支出	1,634,072,000	1,459,057,898	175,014,102
[予備費]	(0)		
	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	199,402,000	659,259,257	459,857,257
次年度繰越支払資金	867,295,031	1,563,121,484	695,826,453
支出の部合計	16,236,105,031	15,838,956,469	397,148,562

(2) 消費収支の概要

当年度帰属収入は 3,757 百万円で基本金組入額 5,054 百万円を減じた消費収入は△1,296 百万円となった。一方、消費支出は 6,084 百万円を計上し、当年度の消費収支差額は 7,381 百万円の支出超過となった。主要因は、登美ヶ丘キャンパスの校地購入及びグラウンド整備、郡山キャンパスの校舎建替及び設備の整備等を実施した結果、多額の基本金組入れを行ったことと、高田・郡山両キャンパスの校舎建替に伴い建物の解体を行った結果、多額の資産処分差額を計上したことにある。

予算と比較すると、帰属収入は学生生徒納付金及び地方公共団体からの補助金の増加等により、189 百万円の増収となった。消費支出は教育研究経費・管理経費の減少等により、301 百万円の削減となった。

なお、第 2 号基本金のうち、事業がすでに終了しているものの残高 531 百万円の取崩しを行った。

平成 21 年度 消費収支計算書

(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,196,273,000	2,248,560,186	52,287,186
手数料	53,843,000	55,127,085	1,284,085
寄付金	14,409,000	18,265,532	3,856,532
補助金	714,826,000	783,167,818	68,341,818
国庫補助金	25,283,000	35,755,500	10,472,500
地方公共団体補助金	687,353,000	747,044,318	59,691,318
その他補助金	2,190,000	368,000	1,822,000
資産運用収入	425,679,000	439,635,200	13,956,200
資産売却差額	0	15,879,600	15,879,600
事業収入	76,652,000	77,113,690	461,690
雑収入	86,495,000	119,993,377	33,498,377
帰属収入合計	3,568,177,000	3,757,742,488	189,565,488
基本金組入額合計	6,970,335,000	5,054,531,491	1,915,803,509
消費収入の部合計	3,402,158,000	1,296,789,003	2,105,368,997

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,362,230,000	3,325,563,140	36,666,860
教育研究経費	1,780,237,000	1,631,176,224	149,060,776
管理経費	510,472,000	442,015,322	68,456,678
資産処分差額	692,228,000	685,993,740	6,234,260
徴収不能引当金繰入額等	21,400,000	150,000	21,250,000
[予備費]	(0)		
	20,000,000		20,000,000
消費支出の部合計	6,386,567,000	6,084,898,426	301,668,574
当年度消費支出超過額	9,788,725,000	7,381,687,429	
前年度繰越消費収入超過額	26,441,231,552	26,441,231,552	
基本金取崩額	0	531,850,000	
翌年度繰越消費収入超過額	16,652,506,552	19,591,394,123	

(3) 貸借対照表の概要

当年度末の資産総額は79,730百万円で、前年度末に比べ2,089百万円の減少となった。登美ヶ丘キャンパスの校地購入及びグラウンド整備、郡山キャンパスの校舎建替及び設備の整備等により、有形固定資産が5,247百万円増加した。その他の固定資産に第2号基本金引当特定資産を創設し、有価証券から6,639百万円振替えた。また、有価証券の長期・短期による区分を明確にし、短期保有分を流動資産に8,433百万円計上した。その結果、その他固定資産が9,149百万円減少、固定資産合計では3,901百万円減少した。一方、流動資産は1,811百万円増加した。

総資金では、負債の合計が1,875百万円で前年度末に比べ237百万円増加した。また、基本金及び累積の消費収支差額の合計である自己資金は前年度末比2,327百万円減少の77,854百万円となった。

平成21年度 貸借対照表
(平成22年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	69,564,893,503	73,466,275,028	3,901,381,525
有形固定資産	44,863,010,061	39,615,329,907	5,247,680,154
土地	22,559,220,603	19,569,752,603	2,989,468,000
建物	18,076,477,935	15,952,950,531	2,123,527,404
その他の有形固定資産	4,227,311,523	4,092,626,773	134,684,750
その他の固定資産	24,701,883,442	33,850,945,121	9,149,061,679
流動資産	10,165,818,082	8,353,940,909	1,811,877,173
現金預金	1,563,121,484	6,288,275,031	4,725,153,547
その他の流動資産	8,602,696,598	2,065,665,878	6,537,030,720
資産の部合計	79,730,711,585	81,820,215,937	2,089,504,352
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	809,597,177	841,206,087	31,608,910
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	809,597,177	841,206,087	31,608,910
流動負債	1,066,276,316	797,015,820	269,260,496
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,066,276,316	797,015,820	269,260,496
負債の部合計	1,875,873,493	1,638,221,907	237,651,586
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	51,290,747,694	46,236,216,203	5,054,531,491
第2号基本金	6,639,160,689	7,171,010,689	531,850,000
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	333,535,586	333,535,586	0
基本金の部合計	58,263,443,969	53,740,762,478	4,522,681,491
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
年度消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費収入超過額	19,591,394,123	26,441,231,552	6,849,837,429
消費収支差額の部合計	19,591,394,123	26,441,231,552	6,849,837,429
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	79,730,711,585	81,820,215,937	2,089,504,352

(4) 平成21年度 財産目録 (概要)

財 産 目 録

I 資産総額	79,730,711,585円
内 基本財産	44,830,390,595円
運用財産	34,900,320,990円
収益事業用財産	0円
II 負債総額	1,875,873,493円
III 正味財産	77,854,838,092円

科 目	21 年 度 末	
一 資産額		
1 基本財産		
土地	477,739.68m ²	22,522,280,903円
建物	113,804.74m ²	18,052,530,627円
図書	330,685冊 3,161点	1,075,833,164円
教具・校具・備品	27,042点	919,649,433円
その他		2,260,096,468円
2 運用財産		
現金預金		1,563,121,484円
その他		33,337,199,506円
3 収益事業用財産		0円
資 産 総 額		79,730,711,585円
二 負債額		
1 固定負債		
長期借入金		0円
その他		809,597,177円
2 流動負債		
短期借入金		0円
その他		1,066,276,316円
負 債 総 額		1,875,873,493円
正味財産 (資産総額－負債総額)		77,854,838,092円

(5) 監査報告書

監 査 報 告 書

平成 22 年 5 月 11 日

学校法人 奈良学園
理 事 会 御中
評議員会 御中

学校法人 奈良学園

常勤監事 結城 義久 ㊟

監 事 村田 智之 ㊟

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人奈良学園の寄附行為第 10 条の規定に従い、学校法人奈良学園の平成 21 年度(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続きを実施した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上